

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-161269

(43)公開日 平成8年(1996)6月21日

(51)Int.Cl.⁸

G 0 6 F 15/02

17/60

識別記号

3 5 5 Z

3 4 0 B

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 F 15/ 21

P

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 5 頁)

(21)出願番号

特願平6-299594

(22)出願日

平成6年(1994)12月2日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 松川 秀樹

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 藤田 晋吾

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 中尾 喜代子

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

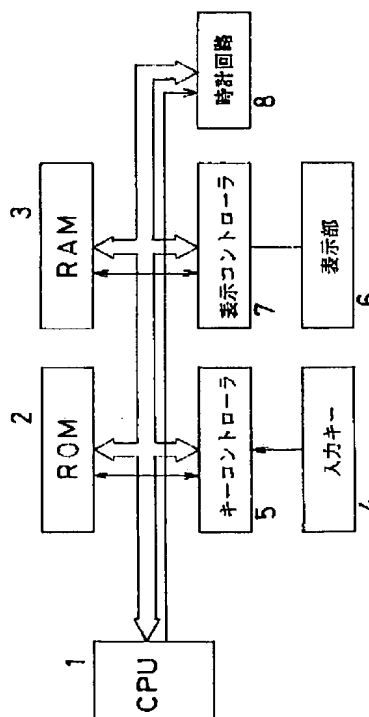
(74)代理人 弁理士 宮井 暎夫

(54)【発明の名称】 電子式家計簿

(57)【要約】

【目的】 安価で、操作が簡単で、携帯性ある装置で家計簿作成機能を有する電子式家計簿を提供する。

【構成】 タッチパネルの入力キー4からの入力情報に基づいて各種の演算処理を行うCPU1と、プログラムデータを記憶するROM2と、可変的データを記憶するRAM3と、支出データを入力するとともにCPU1に指令するための入力キー4と、入力キー4からの信号を入力してCPU1へ送るキーコントローラ5と、金額などを画面に表示する表示部6と、表示部6に映し出すための表示コントローラ7とを備えている。日付と支出項目と金額とを入力キー4により入力すると、その入力した内容が同時に表示部6に表示される。登録の入力キー4を押すと、RAM3内の指定アドレスに入力した金額だけ加算し、格納していく。月単位の終わりの加算されたデータがその月の各支出項目の合計金額となる。



中央処理装置 (演算処理制御部)
ROM (記憶部)
RAM (入力手段)
キーコントローラ (入力手段)
表示部 (表示手段)
表示コントローラ (表示手段)

1 2 3 4 5 6 7

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 データを記憶する記憶部と、日付、支出項目および金額からなる支出データを入力する入力手段と、前記支出データを表示する表示手段と、前記入力手段から入力した支出データを演算処理しこの演算処理したデータを前記記憶部および前記表示手段へ転送する演算処理制御部とを備え、前記入力手段として、抵抗マト方式、静電結合方式、電磁誘導方式などのタッチパネルを前記表示手段の画面上に設けた電子式家計簿。

【請求項2】 贈答品に関する時期、贈答先、贈答品の種類および金額のデータを入力手段から入力し、支出データと同様に処理可能としたことを特徴とする請求項1記載の電子式家計簿。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、家計の収支管理のできる電子式家計簿に関する。

【0002】

【従来の技術】 元来、家計簿を作成する目的は、買物を行った内容を家計簿帳に記入して毎日、毎月の収支を管理するものであり、個々の家庭で取り組むものである。最近では一般家庭にもパーソナルコンピュータが普及したため、汎用の家計簿を作成するソフトプログラムが扱われるようになった。このパーソナルコンピュータと家計簿作成用のソフトプログラムを用いることにより、家計簿の集計時間を著しく短縮できるようになったのは明かである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、家計簿を扱う者は主婦層が圧倒的であり、コンピュータなどの操作に不慣れな者が多く、一般家庭に広がるまでには至っていないのが現状である。また、パーソナルコンピュータの機能は家計簿だけではなく、他の多くのことができるために操作が複雑になる。さらに、価格についてもパーソナルコンピュータ自体が高価で、節約を目的とする家計管理に逆に経費が掛かることとなり、主婦層が関心を示さないのが実状である。このように、パーソナルコンピュータを用いて家計簿を作成する従来例では、ハード自体が家計簿を作成する専用機でないために、購入金額、分類、月日等の入力操作が複雑であり、パーソナルコンピュータそのものが高価で、携帯性がなかった。これに対して、電子手帳や電卓のようなものは比較的安く、主婦層でも購入は手軽である。また、入力テンキーもわずかで操作が簡単であり、置き場所においても困ることがなく、手軽に持ち運びがしやすく買物などの移動先でも操作することができる。

【0004】 この発明の目的は、電子手帳や電卓のように、安価で、操作が簡単で、携帯性ある装置で家計簿作成機能を有する電子式家計簿を提供することである。

【0005】

2

【課題を解決するための手段】 請求項1記載の電子式家計簿は、データを記憶する記憶部と、日付、支出項目および金額からなる支出データを入力する入力手段と、支出データを表示する表示手段と、入力手段から入力した支出データを演算処理しこの演算処理したデータを記憶部および表示手段へ転送する演算処理制御部とを備え、入力手段として、抵抗マト方式、静電結合方式、電磁誘導方式などのタッチパネルを表示手段の画面上に設けている。

10 【0006】 請求項2記載の電子式家計簿は、請求項1記載の電子式家計簿において、贈答品に関する時期、贈答先、贈答品の種類および金額のデータを入力手段から入力し、支出データと同様に処理可能としたことを特徴とする。

【0007】

20 【作用】 この発明によれば、家計簿作成を専用とする携帯型計算機であり、小型装置であるからどこへにも移動が可能であり、入力手段や表示手段が単一機能であるから操作が簡単で操作時間を短縮でき、パーソナルコンピュータに比べて安価な装置となる。

【0008】

30 【実施例】 以下、この発明の一実施例について図面を参照しながら説明する。図1はこの発明の一実施例の電子式家計簿の構成を示すブロック図である。図1において、1は中央処理装置（以下「CPU」という；演算処理制御部）、2はプログラムデータを記憶するROM、3は日付、支出項目および支出金額等の支出データ（可変的データ）を記憶するRAM（記憶部）、4は支出データを入力する入力キー（入力手段）、5はキーコントローラ（入力手段）、6は液晶表示素子等からなる表示部（表示手段）、7は表示コントローラ（表示手段）、8は時計回路である。

40 【0009】 この電子式家計簿は、演算回路とメモリ制御回路を内蔵し、入力キー4からの入力情報に基いて各種の演算処理を行うCPU1を備え、このCPU1は、バスラインや制御信号を介して登録、設定などの業務を実行するために、プログラムデータを記憶するROM2と、可変的データを記憶するRAM3とを動作させる。また、支出データを入力するとともに各業務をCPU1に指令するための入力キー4と、入力キー4からの信号を入力してCPU1へ送るキーコントローラ5と、金額などを画面に表示する表示部6と、表示部6に映し出すための表示データに対応した表示コントローラ7と、時計回路8とを備えている。なお、データの入力手段（入力キー4）として、抵抗マト方式、静電結合方式、電磁誘導方式などのタッチパネルを表示部6の画面上に設けている。

50 【0010】 この実施例では、登録する内容は月々で編集しており、日付（月日）と、主食費・副食費・衛生費・教育費・雑費・家賃などの支出項目と、金額とを入力

3

して登録する。この操作手順ないし動作を具体的に、図2のフローチャートを参照しながら説明する。ストックしていくデータは月単位であり、まず、日付と支出項目と金額とを入力キー4により入力すると（ステップS1、S2、S3）、その入力した内容が同時に表示部6に表示される（ステップS4）。操作者がその表示を見て入力データに間違いなければ（ステップS5）、OK信号である登録の入力キー4を押すと、そのデータをRAM3内の指定アドレスに入力した金額だけ加算し、格納していく（ステップS6）。同様に他の支出項目に対しても指定された各アドレスに入力した金額だけ加算していく。月単位の終わりの加算されたデータがその月の各支出項目の合計金額となる。他のアドレスにストックされていた先月、先々月のデータを表示させて、操作者に電子式家計簿の中にある情報を提供し、金額の比較をすることにより、今月の活動の善し悪しなどを判断できるようにしている。

【0011】以上のようにこの実施例によれば、家計簿作成を専用とする携帯型計算機であり、小型装置であるからどこへにも移動が可能であり、入力部や表示部が単一機能であるから操作が簡単で操作時間を短縮でき、パーソナルコンピュータに比べて安価な装置となる。つぎに、この発明の他の実施例の電子式家計簿について述べる。

【0012】この他の実施例は、上記一実施例で説明した機能の他に、人から贈物を貰ったり、人へ何かを贈ったことなどの情報をファイルする機能を付加したものである。例えば、ある人に物を贈った場合、その情報は贈答先、贈答品の種類（贈答の目的）、時期、金額の内容であり、それらのデータをファイリングするものである。図3～図6に贈った情報を入力キー4（図1）から入力するために表示部6の画面に表示される例を示す。

【0013】例えば、図3に示すように、表示部6に、親類、仲人、上司などの贈答先の分類が表示され、その中から1つを選択する。同様に、贈答品の種類は図4に示す御歳暮、御中元、結婚祝などから選び、贈る時期は何月かを図5から選び、金額は図6から選んで入力する。また、図3～図6に示す4項目は、RAM3の中の各々指定したアドレスにデータを関連してストックし、後で見たい時にデータを表示部6に映し出すようにする。

【0014】なお、図3～図6では、人に贈物をする場合について示しているが、人から贈物を貰った場合についても、同様にそのデータを記録できるものである。ま

4

た、図7にこの発明の一実施例の電子式家計簿の外観図を示す。図7（a）は電子式家計簿として使用する状態、図7（b）は電卓として使用する状態を示す。図7において、11は演算回路やメモリ制御回路を内蔵した本体、12は入力手段としてタッチパネルを有したLCD表示部、13はテンキー14を設けた蓋、15は蓋13に設けた開口部である。この電子式家計簿は、蓋13を本体11に対し左右に摺動可能とし、図7（a）に示すように、蓋13を開いてLCD表示部12上のタッチパネルを操作して家計簿として使用するが、テンキー14によっても操作可能にしている。また、この電子式家計簿は、図7（b）に示すように、蓋13を閉じて電卓としても使用可能であり、この場合テンキー14によって操作入力し、蓋13に設けた開口部15からLCD表示部12に表示された数値が見えるようにしている。

【0015】

【発明の効果】以上のようにこの発明の電子式家計簿は、家計簿作成を専用とする携帯型計算機であり、コンピュータに不慣れな人でも操作が簡単で、非常に安価で携帯性の高い装置であり、一般家庭の家計管理を効率的に行うことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例の電子式家計簿の構成を示すブロック図である。

【図2】この発明の一実施例における動作および操作手順を示すフローチャートである。

【図3】この発明の他の実施例における入力する情報の表示例を示す図である。

【図4】この発明の他の実施例における入力する情報の表示例を示す図である。

【図5】この発明の他の実施例における入力する情報の表示例を示す図である。

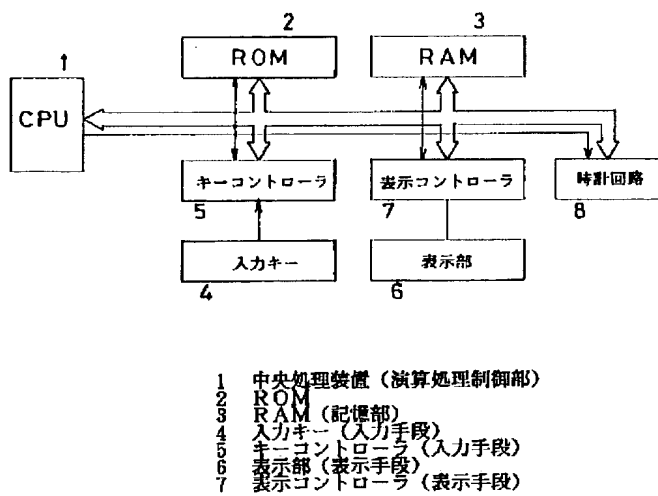
【図6】この発明の他の実施例における入力する情報の表示例を示す図である。

【図7】この発明の一実施例の電子式家計簿の外観図である。

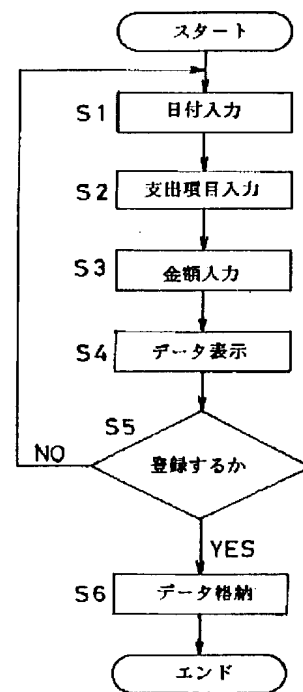
【符号の説明】

- 1 中央処理装置（演算処理制御部）
- 2 ROM
- 3 RAM（記憶部）
- 4 入力キー（入力手段）
- 5 キーコントローラ（入力手段）
- 6 表示部（表示手段）
- 7 表示コントローラ（表示手段）

【図1】



【図2】



【図3】

贈答先は？

① 親類	④ 同僚・部下
② 仲人	⑤ 友人・知人
③ 上司	⑥ ご近所

番号を選んで下さい。

【図4】

贈答品は？

① 御歳暮	④ 出産祝
② 御中元	⑤ 入学・入園祝
③ 結婚祝	⑥ お餞別

番号を選んで下さい。

【図5】

贈る時期は？

① 1月	④ 4月	⑦ 7月	⑩ 10月
② 2月	⑤ 5月	⑧ 8月	⑪ 11月
③ 3月	⑥ 6月	⑨ 9月	⑫ 12月

番号を選んで下さい。

【図6】

金額は？

① ～ 3,000円	④ 10,000円～20,000円
② 3,000円～ 5,000円	⑤ 20,000円～30,000円
③ 5,000円～10,000円	⑥ 30,000円～

番号を選んで下さい。

【図 7】

